

お知らせ

令和2年2月28日（金）
一般社団法人 日本蕎麦協会

令和元年度第31回全国そば優良生産者、農林水産大臣賞

ほかの受賞者、集団の決定について

一般社団法人日本蕎麦協会主催の「令和元年度第31回全国そば優良生産表彰事業」による農林水産大臣賞ほか各賞を、下記のとおり決定いたしました。

なお、3月24日（火）に開催を予定しておりました表彰式は、日本国内における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大という非常事態のため中止とし、受賞者には表彰状・副賞をお送りいたします。

記

1 受賞者

別紙のとおり

(参考) 全国そば優良生産表彰事業の概要

目 的：国産そばの生産を奨励し、消費者へ良質なそばを安定的に提供するため、低コスト・品質向上などの面で模範となる生産農家及び生産集団を表彰し、その成果を広く紹介・普及する（平成元年度から実施、今回で31回目）。

成 果：これまで、品質・生産性向上に努力した生産農家及び生産集団が受賞し、6次産業化、ブランド化の成功にもつながったほか、地域のそば振興のモデルとなっている。

農林水産大臣賞の受賞者の特色：福井県農業試験場が開発した新技術「小畦立て播種」の導入や、種子更新の実施、完全有機栽培による環境配慮型農業など、他の生産者の模範となる点が評価された。

主催：一般社団法人 日本蕎麦協会

後援：農林水産省、全国農業協同組合中央会、日本農業新聞

協賛：一般社団法人 日本麺類業団体連合会、全国蕎麦製粉協同組合、全国農業協同組合中央会、玄蕎麦流通協議会

お問い合わせ先

一般社団法人 日本蕎麦協会

電 話 03-3264-3801

F A X 03-3264-3802

メー ル info @ nihon-soba-kyokai.or.jp

U R L <http://www.nihon-soba-kyokai.or.jp>

(別紙) 令和元年度第31回全国そば優良生産表彰受賞者一覧

令和2年2月18日 審査委員会決定

表彰の種類	受賞者名	所在地
農林水産大臣賞	農事組合法人 エコ・ファームてらお	福井県勝山市
農林水産省政策統括官賞	めかだ きくじ 目加田 菊次	岐阜県大野町
一般社団法人 全国農業協同組合中央会会長賞	こいぶち いきお 鯉渕 功	茨城県常陸太田市
	うちだ とういち 内田 東市	福井県勝山市
一般社団法人 日本麺類業団体連合会会長賞	農事組合法人 ^{おおさと} 大里ファーム	秋田県鹿角市
	なかの 中野生産組合	福島県郡山市
	やまぐち かずお 山口 一夫	茨城県筑西市
全国蕎麦製粉協同組合理事長賞	農事組合法人きずな	秋田県横手市
	うすい たくみ 笛吹 巧	福井県南越前町
一般社団法人 日本蕎麦協会会長賞	もりい あきお 森井 明男	千葉県千葉市
	農事組合法人 ^{こうぼうだいし} 弘法大師ファームみつまた	福井県越前市
一般社団法人 日本蕎麦協会奨励賞	こいけ ともなが 小池 知永	長野県長野市

農林水産大臣賞

氏名・集団名	農事組合法人エコ・ファームてらお (代表理事組合長 <small>もりなが しんいち</small> 森永 新市) 構成農家戸数=55戸
所在地	福井県勝山市
立地・生育条件	勝山市は福井県の北東部に位置し、市の周辺は1,000m級の山に囲まれている。年平均気温13.8℃、年間降水量2,719mm。当該ほ場は標高180m、暮見川の扇状地である。
年産	平成30年産
品種・単収・品質	大野在来(90kg/10a・1等)
そば作付面積	11.5ha (田11.5ha)
収穫量	10,361kg
労働時間	3.50時間/10a
生産費	20,232円/10a
機械化の現状	トラクター、溝切機、小畦立て播種機、汎用コンバイン
作付体系	大麦～そば～水稲(2年3作)
経営上の割合等	玄そば販売(11%) 平均13,474円/45kg
出荷状況	JAテラル越前
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県農業試験場が開発した、新技術の「小畦立て播種」を採用し、発芽時期の降雨被害が極端に減少した。合わせて額縁溝切を徹底している。 ・自家採種をやめ、高価だが、品質が安定しているJAの種子を採用している。 ・そば収穫用の汎用コンバインは高価なため、地域のそば収穫を受託して受託収入も併せて投資効果を改善している。 ・完全有機栽培による環境配慮型農業に取り組んでいる。 ・豪雪地帯であり、大麦収穫後の裏作はそば栽培が最適である。当地は古くからそばの産地であり、品質の評価も高い。一定の収量が確保できれば経営安定に大きく寄与するので、引き続きそば栽培を拡大したいと考えている。

農林水産省政策統括官賞

氏名・集団名	<small>め か だ きく じ</small> 目加田 菊次
所在地	岐阜県揖斐郡大野町
立地・生育条件	大野町は岐阜県の南西部に位置し、揖斐川・根尾川の三角州地である。土壌は肥沃で水田農業・果物などが栽培されている。年平均気温15.2℃、年間降水量2,491mm。降雨による倒伏が見られた。
年産	平成30年産
品種・単収・品質	信濃1号(95kg/10a・2等)
そば作付面積	5.9ha (田5.9ha)
収穫量	5,580kg
労働時間	7.67時間/10a
生産費	12,804円/10a
機械化の現状	トラクター、けん引シーダー、汎用コンバイン
作付体系	小麦～そば
経営上の割合等	玄そば販売(4%)平均15,750円/45kg、乾麺販売(34%)
出荷状況	町内業者(60%)、県外業者(40%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・排水対策は徹底して実施し、ほ場がよく乾燥するようにしている。 ・種子更新を実施し、来年度から多収と対倒伏性を持つ新品種を導入予定である。 ・小麦跡地に作付することで土壌に肥料養分が残っているため、化学肥料や化学合成農薬を一切使用していない。 ・大野町産そばを100%使用の乾麺を製造するにあたり、風味とのと越しのある乾麺の製造について製麺所と協議しながら他社製品を研究しながら品質向上を目指している。 ・そばの栽培拡大により、遊休農地の有効活用にもつながり、地域再生にも貢献する。 ・乾麺の商品名は「みの大野そば」と名付けた。無農薬で栽培した大野町産そばをPRすることで自然豊かで持続可能な田園都市のイメージアップが図られ、商品と町が合わせて発展してゆくことを考えている。

一般社団法人全国農業協同組合中央会会長賞	
氏名・集団名	こい ぶち いさお 鯉 潤 功
所在地	茨城県常陸太田市
立地・生育条件	常陸太田市は茨城県北東部に位置し、市内北部の中山間地でそばを栽培。気候は太平洋型で穏やかで、年平均気温13.6℃、年間降水量1371mm。台風15号の影響が見られた。
年産	令和元年産
品種・単収・品質	常陸秋そば〔種子そば〕(68kg/10a・合格)
そば作付面積	2.3ha 〈田0.2ha・畑2.1ha〉
収穫量	1,585kg
労働時間	6.50時間/10a
生産費	34,651円/10a
機械化の現状	散粒機、トラクター、ロータリー、シーダー、管理機、汎用コンバイン
作付体系	そば単作
経営上の割合等	種子そば販売(46%)平均30,375円/45kg
出荷状況	JA常陸
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・着蕾期～開花初期期に管理機による中耕・培土を実施し、除草・倒伏防止に努めている。 ・土壌診断による酸度矯正、地力改善のための牛糞堆肥の施用を実施している。 ・種子生産者として100%種子更新(県内17%)を行い、「常陸秋そば」のみを栽培し、自家採種は行っていない。 ・発芽率確保のため、黒化率90%での収穫に留意している。 ・減農薬栽培に取り組むとともに、連作障害と湿害防止の土づくりに努力している。 ・種子そばとしての異物除去が確実にされ、良質になるように乾燥・調製は委託している。 ・そば栽培の柱として販売単価が安定し、高付加価値の種子そばの契約栽培を導入している。 ・耕作放棄地の再生に取り組み、里山復活と土地景観改善に尽力している。 ・定年後の生きがいとして、歴史的に地域で栽培されているそばの栽培を始めた。 ・「令和元年度茨城県そば共進会」優秀賞受賞。

一般社団法人全国農業協同組合中央会会長賞	
氏名・集団名	うち だ とう いち 内 田 東 市
所在地	福井県勝山市
立地・生育条件	勝山市は福井県の北東部に位置し、市の周辺は1,000m級の山に囲まれている。年平均気温13.8℃、年間降水量2,719mm。当該ほ場は標高145m、滝波川の扇状地である。
年産	平成30年産
品種・単収・品質	大野在来(73kg/10a・1等)
そば作付面積	5.1ha 〈田5.1ha〉
収穫量	3,696kg
労働時間	3.30時間/10a
生産費	17,866円/10a
機械化の現状	トラクター、溝切機、ブロードキャスター、ロータリー、播種機、コンバイン
作付体系	大麦～そば～水稲(2年3作)
経営上の割合等	玄そば販売(25%)平均13,514円/45kg
出荷状況	JAテラル越前(100%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・播種は天気予報に注意し、土壌が良く乾いている日に行うようにしている。 ・排水の良い田や湿潤の少ない田を選び、播種予定田にはもみ殻を300kg/1反撒いている。また、排水を良くするために排水口位置を40cm以上深くし、排水溝も30cm以上深くした。 ・毎年農協から種子を購入し、種子更新をしている。 ・排水溝の作り方を工夫して30aを1人で50分以内に作業完了している。 ・規模は拡大できないため、そばの生育に適した田を選定することで、収量増加に結びつけたいと考えている。 ・今後は予備の乾燥機を使用し、自ら乾燥・調製を行い、自身で販売することも計画している。

一般社団法人日本麺類業団体連合会会長賞

氏名・集団名	農事組合法人 ^{おおさと} 大里ファーム（代表理事組 ^{あんぼ はるき} 合長 安保 春喜） 構成農家戸数=50戸
所在地	秋田県鹿角市
立地・生育条件	鹿角市は秋田県の最北東部に位置し、ほ場のある八幡平地区は丘陵地帯である。年平均気温9℃、年間降水量約1,400mm、降雪期間は12～3月、平地で約65cm。
年産	令和元年産
品種・単収・品質	にじゆたか(29kg/10a・1等)
そば作付面積	184.6ha 〈田93.2ha・畑91.4ha〉
収穫量	52,650kg
労働時間	23.00時間/10a
生産費	12,714円/10a
機械化の現状	バックホー、トラクター、播種機、散布機、草刈機、コンバイン
作付体系	田:水稲～そば、畑:野菜・たばこ～そば(輪作なし)
経営上の割合等	玄そば販売(19%)平均6,975円/45kg
出荷状況	㈱OGURA・他
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・排水対策として明渠を設置している。 ・収量増加を目指して、階上早生から倒伏に強く、東北地方向けに開発された「にじゆたか」へ品種を変更した。 ・農産物検査員の資格取得者による出荷体制を確立し、品質向上につなげている。 ・耕作放棄地・遊休農地の解消、転作田の活用のためにそばを導入した。 ・毎年9月のそばの花を見ながら新そばを食べる「新そば祭り」の開催や、乾麺(ユネスコ無形文化遺産に認定された「大日堂舞楽」をモチーフにした「大日堂そば」)の製造販売による6次産業化への取り組みも進めている。 ・当該法人により農地が適切管理されていることにより、景観保全につながっている。 ・今後は、地域内の高齢化にともなう後継者不足への対応と、収量減少への対策として、肥料の検討と植物共生細菌「エンドファイト」による栽培の検証を進める。

一般社団法人日本麺類業団体連合会会長賞

氏名・集団名	なかの ^{せいざんくみあい} せいざんくみあい 中野生産組合（組 ^{くわな しゅういちろう} 合長 桑名 秀一郎） 構成農家戸数=3戸
所在地	福島県郡山市
立地・生育条件	郡山市は福島県のほぼ中央に位置し、ほ場の位置する中野地区は平坦部が少ない。年平均気温9.6℃、年間降水量1,294mm、降雪量618cm。排水性は高く、団地化されている。
年産	令和元年産
品種・単収・品質	会津のかおり(夏)(4kg/10a・1等)、会津のかおり(秋)(47kg/10a・1等)
そば作付面積	69.0ha 〈田43.0ha・畑26.0ha〉
収穫量	360kg(夏)、25,130kg(秋)
労働時間	2.38時間/10a
生産費	15,955円/10a
機械化の現状	トラクター、ブロードキャスター、播種機、刈り払い機、草刈機、コンバイン
作付体系	田:秋そば単作・夏そば～秋そば、畑:秋そば単作
経営上の割合等	玄そば販売(14%)平均10,000円/45kg、抜き実販売(32%)、そば粉販売(29%)、種子販売(20%)
出荷状況	JA(30%)、県外そば店(30%)、県内そば店(20%)、会津のかおり種子協議会(20%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的排水性が高い土壌だが、粘土質の排水不良のほ場には明渠を施工している。 ・そばの連作による地力低下がみられるため、石灰による土づくりを実施している。 ・品質維持のため、1作毎に種子更新を行っている。 ・大規模経営によるスケールメリットを活かし、低コスト化・直売を可能にしている。 ・販売先からの要望により、早期収穫・刈遅れがないように努力しており、収穫したそば脱酸素剤を封入し、冷蔵保存することで品質低下を防止している。 ・生産するそばに付加価値をつけるため直売分は、抜き実・そば粉に加工して販売しており、玄そばの相場に左右されない収入を確保している。 ・地域内の古民家を活用し、自家製のそば粉を使ったそば店を開店(現在は別の経営体)し、高付加価値化と地域振興に取り組んできた。 ・「会津のかおり」種子協議会の会員として種子生産に取り組み、同協議会で生産する種子の1/3を生産している。昨年4月からは代表理事が協議会会長に就任した。

一般社団法人日本麺類業団体連合会会長賞

氏名・集団名	やまぐち かずお 山口 一夫
所在地	茨城県筑西市
立地・生育条件	筑西市は茨城県の西部に位置し、地形は概ね平坦で肥沃な田園地帯である。比較的温暖な太平洋気候で年平均気温14℃、年間降水量約1,200mm。台風の影響が見られた。
年産	令和元年産
品種・単収・品質	常陸秋そば(76kg/10a・1等)
そば作付面積	7.4ha (田2.4ha・畑5.0ha)
収穫量	5,625kg
労働時間	1.91時間/10a
生産費	15,705円/10a
機械化の現状	明渠堀機、ブロードキャスター、プラソイラー、ロータリー、ハイクリブーム、汎用コンバイン
作付体系	大麦～そば～大麦
経営上の割合等	玄そば販売 平均6,800円/45kg、種子そば販売 平均20,000円/45kg
出荷状況	地元製粉会社・雑穀店(40%)、直売所(20%)、穀物改良協会(種子・40%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・水田では必ず明渠を施工し、畑地でも深耕することでほ場の排水性を改善して、湿害防止を図っている。 ・気象条件で収穫量がなくなることはないよう、作付けするほ場を分散し、異なる条件のほ場で作付することでリスクを低減している。 ・ほ場内および周辺の雑草を防除し、異種穀粒や異物の混入を防止、コンバイン選別板の網目改良による異物混入の防止も実施している。 ・そばの品質向上のため、5年以上前から鶏糞堆肥の施用により地力増進を進めている。 ・地元の製粉会社・個人客など、販売先を複数持つことによって安定的に販売できるようにしている。 ・そばは栽培期間が短期で、低コスト・高付加価値の作物であるため20年前に導入した。 ・休耕地の有効活用のため、さらに栽培規模の拡大を進める予定である。 ・「令和元年度茨城県そば共進会」最優秀賞受賞。

全国蕎麦製粉協同組合理事長賞

氏名・集団名	農事組合法人きずな (代表理事組合長 さいとう りゅうへい 齊藤 龍平) 構成農家戸数=34戸
所在地	秋田県横手市
立地・生育条件	横手市は県南内陸部の横手盆地に位置し、典型的な内陸性気候である。年平均気温10.9℃、年間降水量1,643mm、最深積雪100cmで、気温の日較差が大きい。
年産	令和元年産
品種・単収・品質	階上早生(62kg/10a・1、2等)
そば作付面積	31.3ha (田31.3ha)
収穫量	19,466kg
労働時間	2.92時間/10a
生産費	31,753円/10a
機械化の現状	バックホー、ブロードキャスター、トラクター、ロータリー、動力散布機、汎用コンバイン
作付体系	大豆～夏・秋そば～大豆、小麦～秋そば～大豆(2年3作)
経営上の割合等	玄そば販売(4%)平均10,000円/45kg(他に受託分15%)、抜き実販売(0.3%)、そば粉販売(0.3%)
出荷状況	県内製粉会社(20%)、県外製粉会社(45%)、小売業者(30%)、直売(5%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・小麦～そば～大豆や大豆～夏・秋そば～大豆の作付体系により、小麦・大豆とともに地域の平均以上の収量を確保している。 ・発酵鶏糞(30～60kg/10a)・小麦の麦稈のすき込みにより、地力向上を図る。排水対策については、全ほ場で額縁明渠を実施している。 ・種子は毎年100%更新している。可能な限り隔離されたほ場で生産されたものを選ぶ。 ・環境整備・経営管理への注力のためJ-GAPを昨年度取得した。 ・実需者の要望に応えるため、黒化率70%での収穫や、乾燥・調製に注意している。 ・全国に独自の販売ルートがあるので、常に変化する実需のニーズを的確に把握し、そばを含めた野菜類や米についてニーズに合わせた農産物生産をPRしている。 ・毎年11月に「道の駅十文字」において十割蕎麦の無料試食会を10年以上にわたり実施している。そばの栽培の周知だけではなく、生産者への感謝の気持ちも込めている。 ・GPS付作業機をはじめスマート農業も積極的に取り入れている。

全国蕎麦製粉協同組合理事長賞

氏名・集団名	うすい たくみ 笛吹 巧
所在地	福井県南越前町
立地・生育条件	南越前町は福井県のほぼ中央、嶺北地域の南端に位置する。日野川西岸の開けたほ場であり、日照条件が良く風通しも良いため、土壌が適度に乾くそば栽培に適した場所である。
年産	平成30年産
品種・単収・品質	今庄在来(64kg/10a・1等)
そば作付面積	6.3ha 〈田6.3ha〉
収穫量	4,050kg
労働時間	4.45時間/10a
生産費	16,300円/10a
機械化の現状	草刈機、トラクター、動力散布機、汎用コンバイン
作付体系	水稲～そば～水稲
経営上の割合等	玄そば販売(7%)平均16,000円/45kg
出荷状況	(有)斎藤製粉所、県内そば店、(株)カガセイフン
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・溝切等による排水・湿害対策を徹底して実施している。さらに播種・耕起を同時に実施することで碎土率を高め、安定苗立を確保している。 ・連作障害回避のため、毎年栽培ほ場を変更し、前作の栽培にあたっては有機質肥料を投入することで土づくりによる収量向上を目指している。 ・収穫後は風味低下を防ぐためにすぐに自家の乾燥・調製施設で通風循環乾燥を実施して、調製・磨き作業を行っている。 ・出荷に際しては、こだわりのあるそば店・製粉業者と契約栽培を実施することで安定した販売先を確保するとともに、販売単価の向上も実現している。 ・毎年地元のそば打ち愛好会へ一定量のそば粉の販売を行っている。 ・町内の特産品である今庄そばの伝統を守るとともに、福井県のそば文化のさらなる発展のために地域に伝わる今庄在来種のそばの生産・普及を試みるためにそばの栽培を導入した。今後は県外への販路開拓を考えている。

一般社団法人日本蕎麦協会会長賞

氏名・集団名	もり い あき お 森井 明男
所在地	千葉県千葉市
立地・生育条件	千葉市は千葉県の中央部に位置し、比較的平坦な地形である。年平均気温15～16℃、年間降水量1,500mm程度で冬場の冷え込みが厳しい。近年は台風などの影響が多い
年産	平成30年産
品種・単収・品質	千葉在来(80kg/10a・1等)
そば作付面積	10.0ha 〈畑10.0ha〉
収穫量	7,980kg
労働時間	2.75時間/10a
生産費	28,050円/10a
機械化の現状	サブソイラー、プラウ、ロータリー、コンバイン
作付体系	小麦～そば
経営上の割合等	玄そば販売 平均18,000円/45kg、抜き実販売、そば粉販売、種子販売
出荷状況	「千葉在来普及協議会」会員そば店、会員手打ちそば教室指導者、会員農業者
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・排水対策としては2年に1度サブソイラーをかけ、倒伏防止のため条間を狭くし、地力維持のために有機物を多くすき込み、地中微生物を増やすよう心掛けている。 ・他地域の優良農家から種子を購入し、定期的に種子更新することで、品質維持につとめている。 ・乾燥は収穫直後は通風のみで行い、茶化した後、通風循環乾燥で10日以上かけて水分を徐々に落とし、薄緑色を保つようにしている。 ・各種農業機械を導入により、作業時間を短縮し、機械も極力中古を導入するなどコスト低減を図っている。 ・在来種そばの特徴を生かすべく、乾燥後は冷蔵庫で保管し、自家で調整・加工・製粉を行って直売することで販売価格の安定に努めている。 ・「千葉在来普及協議会」では「千葉在来そば」を商標登録し、12年にわたりそば祭りを主催するなど、普及・啓蒙にも尽力している。

一般社団法人日本蕎麦協会会長賞

氏名・集団名	農事組合法人 ^{こうぼうだいし} 弘法大師ファームみつまた (代表理事組合長 ^{おくやま のりあき} 奥山 紀昭) 構成農家戸数=30戸
所在地	福井県越前市
立地・生育条件	越前市は福井県嶺北地方の南部に位置し、日本海性気候である。最深積雪が100cmを超える年もあり、年平均気温約14℃、年間降水量約2,400mmである。
年産	平成30年産
品種・単収・品質	今庄在来(87kg/10a・未検査(JA自主検査合格))
そば作付面積	7.7ha (田7.7ha)
収穫量	6,700kg
労働時間	2.35時間/10a
生産費	20,111円/10a
機械化の現状	草刈機、溝切機、トレンチャー、トラクター、モア、コンポキヤスター、ロータリー、コンバイン
作付体系	水稲～大麦～そば(2年3作)
経営上の割合等	玄そば販売(7%)平均11,000円/45kg
出荷状況	JA越前たけふ(100%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・そばの安定生産に一番重要な排水対策として、水田での暗渠施工を独自に進めるとともに、水稲とのブロックローテーションを実施している大麦後の明渠をさらに掘りなおして活用している。播種後は手作業による明渠の手直しを実施し、明渠内に滞留が無いよう細心の注意を払っている。 ・県農業試験場で開発された「小畦立て播種機」を平成30年産からいち早く試験導入することで、発芽苗立の安定のための研究に努めている。 ・高付加価値販売につなげるため、無農薬・無化学肥料栽培を全面積で実施し、有機質肥料使用や虫害対策としてフェロモントラップをほ場に設置。また、土壌改良材を散布。 ・農地の集積・集約や機会化による作業時間短縮、コスト引き下げ、作付体系の確立、契約栽培等を行うとともに、「小畦立て播種」「ICTブル」など新技術の試験導入も積極的に行っている。 ・限られた土地を有効活用するためにも大麦・そばの導入を行った。

一般社団法人 日本蕎麦協会会奨励賞

「一般社団法人 日本蕎麦協会奨励賞」は、2次審査において各賞の対象とならなかった候補者について、他の模範となる生産者として、今後の経営の発展を期待して贈呈することといたしました。奨励賞受賞者については、来年度以降、作付面積・収量・生産技術・経営・取り組みなどについて発展が見られた場合には再度表彰事業への応募が可能となります。

<令和元年度第31回 一般社団法人 日本蕎麦協会奨励賞>

小池 知永 長野県長野市